

# ワクチンで 異常産を予防しましょう!

ヌカカ等の吸血昆虫によって伝染する  
牛の異常産の代表的なものとして、以下の4疾病があります。



疾病名	症状			感染（抗体陽転）・発生状況※
	流産 早産 死産	産子の 体形異常 又は麻痺や 運動失調等	生後感染に よる麻痺や 運動失調等	
アカバネ病 (届出)	あり	あり	あり	R1：岡山県を含む 西日本の多くで感染 R2：熊本県で発生 R4：北海道と熊本県で感染
チュウザン病 (届出)	少ない	あり	なし	H19：沖縄県で発生
アイノウイルス 感染症（届出）	あり	あり	なし	R1：沖縄県で発生 R4：山口県で感染
ピートン ウイルスの 感染	あり	あり	なし	H28：岡山県を含む中国地方 兵庫県で発生 R2：九州で発生

※「感染（抗体陽転）」とは、異常産を起こすウイルスが地域に侵入していることを示しており、注意が必要です。  
「発生」とは、異常産が実際に確認されたものです。

気候の温暖化等により、吸血昆虫によるこれらの感染症の拡大が危惧されています。難産による母牛の損耗や、体形異常等による子牛の損失を防ぐためには、ワクチン接種を毎年継続することで免疫力を高めておくことが重要です。また、流行が確認されてからの接種では遅く、異常産を予防することはできません。

ワクチンは、吸血昆虫が活発に活動を始める前の4~6月に、計画的に接種しましょう。なお、不活化ワクチンは継続して、毎年接種する必要があります。毎年1回の接種を怠ると、初年度と同様に基礎免疫として2回の接種が必要となります。



## 牛異常産ワクチンについて

ワクチンの種類	対象の病気				用法（接種方法）
	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症	ピートンウイルスの感染	
アカバネ病生ワクチン	○	—	—	—	・毎年1回接種 4～6月 
牛異常産3種混合不活化ワクチン※	○	○	○	—	・初年度は2回、その後は毎年1回接種 4～6月 
牛異常産4種混合不活化ワクチン	○	○	○	○	・初年度は2回、その後は毎年1回接種 4～6月 

※牛異常産3種混合不活化ワクチンは、令和6年度中に製造が中止されるため、当会での取り扱いは令和6年度までとなります。

### 【資料提供・文献】

岡山県・動物用ワクチン利用の手引き（牛用ワクチン編）：動物用ワクチン等保管協議会ワクチン使用説明書

## 予防接種の相談・申込

ワクチンの詳細や接種料金については、（一社）岡山県畜産協会各支部又は診療獣医師（NOSAI 家畜診療所、おからく生産支援課、開業獣医師）までお尋ねください。

岡山県畜産協会岡山支部 (岡山家畜保健衛生所内)	Tel 086-724-3880	備中家畜診療所 (浅口郡里庄町)	Tel 0865-64-4141
岡山県畜産協会井笠支部 (井笠家畜保健衛生所内)	Tel 0866-84-8221	備中家畜診療所備北出張所 (高梁市落合町)	Tel 0866-22-2211
岡山県畜産協会高梁支部 (高梁家畜保健衛生所内)	Tel 0866-22-2077	美作家畜診療所 (津山市国分寺) ※令和6年4月、鏡野町沢田へ移転予定	Tel 0868-26-1112
岡山県畜産協会津山支部 (津山家畜保健衛生所内)	Tel 0868-29-0040	美作家畜診療所蒜山出張所 (真庭市蒜山富山根)	Tel 0867-66-2517
生産獣医療支援センター (岡山市北区建部町)	Tel 0867-22-1500	おからく生産支援課 (津山市川崎)	Tel 0868-26-1106